

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。 (監督員・主任監督員)

考査項目	細別	a	b	c	d	e
1. 施工体制	I. 施工体制一般	施工体制が適切である	施工体制がほぼ適切である	他の評価に該当しない	施工体制がやや不備である	施工体制が不備である
		[評価対象項目] 1 ☐ 施工計画書を、工事着手前に提出している。 2 ☐ 作業分担の範囲を、施工体制台帳及び施工体系図に明確に記載している。 3 ☐ 施工計画書の内容と現場施工方法が一致している。 4 ☐ 緊急指示、災害、事故等が発生した場合の対応が速やかである。 5 ☐ 工場製作期間における技術者を適切に配置している。 6 ☐ 機械設備、電気設備等について、製作工場における社内検査体制（規格値の設定や確認方法等）を整えている。 7 ☐ 施工体制台帳、施工体系図が整備され、施工体系図も現場に掲げられ、現場と一致している。 8 ☐ コリンズ（CORINS）の登録は工事監督員の確認を受けた上で、契約後等から10日以内に行われている。 9 ☐ 雇用者等の雇用形態に応じて、建設業退職金共済、中小企業退職金共済等の制度に加入し、適正に処理されている。 10 ☒ その他理由：				

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✓マークを記入し、所見を枠内に記入する。 (監督員・主任監督員)

考査項目	細別	a	b	c	d	e
1. 施工体制	Ⅱ. 配置技術者 (現場代理人等)	技術者が適切に配置されている	技術者がほぼ適切に配置されている	他の評価に該当しない	技術者の配置がやや不備である	技術者の配置が不備である
		〔評価対象項目〕			☐ 配置技術者に関して、工事監督員からの文書による改善指示を行った。 上記該当事項があれば・・・d	☐ 配置技術者に関して、工事監督員からの文書による改善指示に従わなかった。 上記該当事項があれば・・・e
		1	☐ 作業に必要な作業主任者及び専門技術者を選任及び配置している。			
		2	☐ 現場代理人が工事全体を把握している。			
		3	☐ 設計図書の照査が事前に行なわれ、設計図書と現場との相違があった場合は、監督職員と協議するなどの必要な対応を行っている。			
		4	☐ 工事監督員への報告を適時及び的確に行っている。			
		5	☐ 工事書類を共通仕様書及び諸基準に基づき適切に作成し、工事簡素化に取組み、提出提示を行っている。			
		6	☐ 契約書、設計図書、適用すべき諸基準等を理解し、施工に反映している。			
		7	☐ 施工上の課題となる条件（作業環境、気象、地質等）への対応を図っている。			
		8	☐ 下請の施工体制及び施工状況を把握し、技術的な指導を行っている。			
9	☐ 監理（主任）技術者が、明確な根拠に基づいて技術的な判断を行っている。					
10	☐ 施工に先立ち、創意工夫の提案をもって工事を進めている。					
11	☒ その他理由：					
		該当項目が90%以上・・・・・・・・・・a 該当項目が80%以上90%未満・・・・・・・・b 該当項目が80%未満・・・・・・・・・・c	÷ = %			

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。
③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。 (監督員・主任監督員)

考査項目	細別	a	b	c	d	e
2. 施工状況	I. 施工管理	施工体制が適切である	施工体制がほぼ適切である	他の評価に該当しない	施工体制がやや不備である	施工体制が不備である
		[評価対象項目] 1 ☐ 施工計画（品質管理を除く）に関して評価できる提案を現場で実施し、その効果が確認できる。 2 ☐ 現場条件の変化に対して、適切に対応している。 3 ☐ 工事材料の品質に影響が無いよう保管している。 4 ☐ 工事材料の使用及び調達計画が十分なされ管理されている。 5 ☐ 日常の出来形管理を、設計図書及び施工計画書に基づき適時及び的確に行っている。 6 ☐ 日常の品質管理を、設計図書及び施工計画書に基づき適時及び的確に行っている。 7 ☐ 現場内の整理整頓を日常的に行っている。 8 ☐ 工事材料の品質を証明する資料及び写真を整理している。 9 ☐ 工事打合簿等を、不足無く整理している。 10 ☐ 建設廃棄物及び建設副産物の再利用等への取り組みを適切に行っている。 11 ☐ 工事全般において、低騒音型、低振動型の建設機械及び車両を使用している。 12 ☐ 工事全般において、排出ガス対策型の建設機械及び車両を使用している。 13 ☐ 契約約款第18条第1項に基づく設計図書の照査を行い、必要に応じて工事監督員の確認を受けて施工を行っている。 14 ☐ 現場でのイメージアップに積極的に取り組んでいる。 15 ☐ 立会確認・段階確認の手続きが適時、的確になされている。 16 ☒ その他理由： 該当項目が90%以上・・・・・・・・・・a 該当項目が80%以上90%未満・・・・・・・・b 該当項目が80%未満・・・・・・・・・・c ÷ = %			☐ 施工管理に関して、工事監督員からの文書による改善指示を行った。 上記該当事項があれば・・・d	☐ 施工管理に関して、工事監督員からの文書による改善指示に従わなかった。 上記該当事項があれば・・・e
① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。 ③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。						

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(監督員・主任監督員)

考査項目	細別	a	b	c	d	e
2. 施工状況	Ⅱ. 工程管理	工程管理が適切である	工程管理がほぼ適切である	他の評価に該当しない	工程管理がやや不備である	工程管理が不備である
		〔評価対象項目〕			工程管理に関して、工事監督員からの文書による改善指示を行った。 上記該当事項があれば・・・d	工程管理に関して、工事監督員からの文書による改善指示に従わなかった。 上記該当事項があれば・・・e
		1	☐ 工程に与える要因を的確に把握し、それらを反映した工程表を作成している。			
		2	☐ 実施工程表の作成及びフォローアップを行っており、適切に工程を管理している。			
		3	☐ 現場条件の変化への対応が迅速であり、施工の停滞が見られない。			
		4	☐ 時間の制限や片側交互通行等の各種制約への対応が適切であり、大きな工程の遅れが無い。			
		5	☐ 工事の進捗を早めるための取り組みを行っている。			
		6	☐ 適切な工程管理を行い、工程の遅れが無い。			
		7	☐ 休日の確保を行っている。			
		8	☐ 計画工程以外の時間外作業がほとんど無い。			
9	☒ その他理由：					
該当項目が90%以上・・・a 該当項目が80%以上90%未満・・・b 該当項目が80%未満・・・c			÷ = %			

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。
③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。

〔記入方法〕 該当する項目の□に✓マークを記入し、所見を枠内に記入する。

調査項目	細別	a	b	c	d	e	
2. 施工状況	Ⅲ. 安全対策	安全対策を適切に行った	安全対策をほぼ適切に行った	他の評価に該当しない	安全対策がやや不備であった	安全対策が不備であった	
		[評価対象項目] 1 ☐ 災害防止（工事安全）協議会等を1回／月以上行っている。 2 ☐ 安全教育・訓練等を（半日／月）以上適切に実施し、記録が整備されている。総合評価における交通事故防止取組計画に基づく取組みを実施し記録が整備されている。 3 ☐ 新規入場者教育を実施し、実施内容に現場の特性が十分反映され、記録が整備されている。交通事故防止取組計画に基づく取組みを実施し記録が整備されている。 4 ☐ 工事期間を通じて、労働災害及び公衆災害が発生しなかった。 5 ☐ 過積載防止に取り組んでいる。 6 ☐ 仮設工の点検及び管理を、チェックリスト等を用いて実施している。 7 ☐ 保安施設の設置及び管理を、各種基準及び関係者間の協議に基づき実施している。 8 ☐ 地下埋設物及び架空線等に関する事故防止対策に取り組んでいる。 9 ☐ 安全管理組織表（元請）及び緊急時体制が整備され、現場にも掲示している。 10 ☐ 各種安全パトロールで指摘を受けていない、または指摘を受けた事項について、速やかに改善を図り、かつ関係者に是正報告している。 11 ☐ 安全巡視、TBM、KY等を実施し記録が整備されている。 12 ☐ 安全管理の臨機の措置を行った。 13 ☐ 重機操作に際して、誘導員配置や重機と人の行動範囲の分離措置がなされている。 14 ☐ 交通事故防止について他の模範となる活動を行っている。 15 ☐ 使用機械、車両等の点検整備等がなされ、その記録が管理されている。 16 ☒ その他理由：			安全対策に関して、工事監督員からの文書による改善指示を行った。 上記該当事項があれば・・・d	安全対策に関して、工事監督員からの文書による改善指示に従わなかった。 上記該当事項があれば・・・e	
		該当項目が90%以上・・・・・・・・・・a 該当項目が80%以上90%未満・・・・・・b 該当項目が80%未満・・・・・・・・・・c ÷ = %				① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。 ③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。	

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(監督員・主任監督員)

考査項目	細別	a	b	c	d	e
2. 施工状況	IV. 対外関係	対外関係が適切であった	対外関係がほぼ適切であった	他の評価に該当しない	対外関係がやや不備であった	対外関係が不備であった
		[評価対象項目] 1 ☐ 関係官公庁などと調整を行い、トラブルの発生が無い。 2 ☐ 地元との調整を行い、トラブルの発生が無い。 3 ☐ 第三者からの苦情が無い。もしくは、苦情に対して適切な対応を行っている。 4 ☐ 関連工事または近接工事との調整を行い、円滑な進捗に取り組んでいる。 5 ☐ 工事の目的及び内容を、工事看板などにより地域住民や通行者等に分かりやすく周知している。 6 ☒ その他理由：			☐ 対外関係に関して、工事監督員からの文書による改善指示を行った。 上記該当事項があれば・・・d	☐ 対外関係に関して、工事監督員からの文書による改善指示に従わなかった。 上記該当事項があれば・・・e
		該当項目が90%以上・・・a 該当項目が80%以上90%未満・・・b 該当項目が80%未満・・・c ÷ = %			① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。 ③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。	

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の□に✓マークを記入し、所見を枠内に記入する。(監督員・主任監督員)

考査項目	細別	a	b	c	d	e
3. 出来形及び 出来ばえ	I. 出来形 	☐出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね50%以内である。	☐出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね80%以内である。	☐出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、a、bに該当しない。		
		① 出来形の評定は、工事全般を通したものとする。 ② 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状寸法である。 ③ 出来形管理とは、「土木工事施工管理基準」の測定項目、測定基準及び規格値に基づく形状寸法を確保する管理体系であるが、当該管理基準によりがたい場合等については、工事監督員と協議の上で出来形管理を行うものである。 ④ ばらつきの考え方は別図参照。 ⑤ 出来形管理項目を設定していない工事はc評価とする。				☐出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当事項があれば・・・d

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(監督員・主任監督員)

考査項目	細別	a	b	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	機械設備工事	出来形管理が適切である	出来形管理がほぼ適切である	他の評価に該当しない	出来形管理がやや不備である	出来形管理が不備である
I. 出来形		〔評価対象項目〕 1 ☐ 据付に関する出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図などを工夫している。 2 ☐ 設備全般にわたり、形状及び寸法の実測値が許容範囲内である。 3 ☐ 施工管理基準の撮影記録が撮影基準を満足している。 4 ☐ 設計図書で定められていない出来形管理項目について、監督職員と協議の上で管理している。 5 ☐ 不可視部分の出来形が写真等（工事監督員等が臨場した資料等）で確認できる。 6 ☐ 社内の管理基準に基づき管理している。 7 ☐ 塗装管理基準の塗膜厚管理を適切にまとめている。 8 ☐ 溶接管理基準の出来形管理を適切にまとめている。 9 ☐ 設計図書に定められている予備品に不足が無い。 10 ☐ 分解整備における既設部品等の摩耗、損傷等について、整備前と整備後の劣化状況及び回復状況を図表等に記録している。 11 ☒ その他理由：				

出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で改善指示を行った。

上記該当事項があれば・・・d

契約約款第17条に基づき、工事監督員が改造請求を行った。

上記該当事項があれば・・・e

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。
③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。

該当項目が80％以上・・・a
該当項目が60％以上80％未満・・・b
該当項目が60％未満・・・c

÷=％

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(監督員・主任監督員)

考査項目	細別	a	b	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	電気設備工事	出来形管理が適切である	出来形管理がほぼ適切である	他の評価に該当しない	出来形管理がやや不備である	出来形管理が不備である
I. 出来形	電気通信・受変電設備工事	〔評価対象項目〕 1☐ 据付に関する出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図などを工夫している。 2☐ 設備全般にわたり、形状及び寸法の実測値が許容範囲内である。 3☐ 設備の据付及び固定方法が設計図書又は承諾図書通り施工している。 4☐ 設計図書で定められていない出来形管理項目について、監督職員と協議の上で管理している。 5☐ 不可視部分の出来形が写真等（工事監督員等が臨場した資料等）で確認できる。 6☐ 社内の管理基準に基づき管理している。 7☐ 機器等の測定（試験）結果が、その都度管理図表などに記録され、適切に管理している。 8☐ 配管及び配線が、設計図書又は承諾図書通りに敷設している。 9☐ 測定機器のキャリブレーションを、定期的に実施している。 10☐ 行先などを表示した名札がケーブルなどに分かり易く堅固に取り付けている。 11☐ 配管及び配線の支持間隔や絶縁抵抗等について、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 12☒ その他理由： 該当項目が80%以上・・・a 該当項目が60%以上80%未満・・・b 該当項目が60%未満・・・c ÷ = % 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当事項があれば・・・d 契約約款第17条に基づき、工事監督員が改造請求を行った。 上記該当事項があれば・・・e ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。 ③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。				

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。 (監督員・主任監督員)

考査項目	細別	a	b	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	共通	品質管理が適切である	品質管理がほぼ適切である	他の評価に該当しない	品質管理がやや不備である	品質管理が不備である
Ⅱ. 品質		〔評価対象項目〕			☐品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当事項があれば・・・d	☐契約約款第17条に基づき、工事監督員が改造請求を行った。 上記該当事項があれば・・・e
		1	☐ 品質管理基準で規定している品質管理項目及び基準値を施工計画書に漏れなく記載している。			
		2	☐ 品質管理基準に規定が無く、協会マニュアル等による品質管理基準の適用が必要な場合、その品質管理項目及び基準値を施工計画書に記載している。			
		3	☐ 材料確認が適時に実施され、品質が確保できた。			
		4	☐ 段階確認（施工状況把握項目含む）が施工計画書通りに適時に実施され、品質が確保できた。			
		5	☐ 工事完成時に工事書類として品質管理図表が提出され、品質管理を適切に行っていることが確認できる。			
		6	☐ 完成した工事の出来ばえから、品質に問題がないことが確認できる。			
		7	☐ 品質向上のための特別な対策について、工事打合せ簿等の書面で工事監督員と協議し、施工計画書に反映した後に実施され、その効果が確認できる。			
該当項目が90%以上・・・a 該当項目が80%以上90%未満・・・b 該当項目が80%未満・・・c				① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。 ③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。 ÷ = %		

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(監督員・主任監督員)

考査項目	細別	a	b	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	機械設備工事	品質管理が適切である	品質管理がほぼ適切である	他の評価に該当しない	品質管理がやや不備である	品質管理が不備である
II. 品質		[評価対象項目] 1 ☐ 材料、部品の品質照合の書類（現物照合）の内容が設計図書の仕様を満足している。 2 ☐ 設備の機能及び性能を、承諾図書のとおり確保している。 3 ☐ 設計図書の仕様を踏まえた詳細設計を行い、承諾図書として提出している。 4 ☐ 機器の品質、機能及び性能が設計図書を満足して、成績書にまとめられている。 5 ☐ 溶接管理基準の品質管理項目について規格値を満足している。 6 ☐ 塗装管理基準の品質管理項目について規格値を満足している。 7 ☐ 操作制御設備について、操作スイッチや表示灯を承諾図書のとおり配置し、操作性にすぐれている。 8 ☐ 操作制御設備の安全装置及び保護装置が承諾図書のとおり機能している。 9 ☐ 小配管、電気配線・配管が、承諾図書のとおり敷設している。 10 ☐ 設備の取扱説明書を工夫している。 11 ☐ 完成図書（取扱説明書）に定期的な点検及び交換を必要とする部品並びに箇所を明示している。 12 ☐ 機器の配置が点検しやすいよう工夫している。 13 ☐ 設備の構造や機器の配置が、部品等の交換作業を容易にできるよう工夫している。 14 ☐ 二次コンクリートの配合試験及び試験練りが実施され、試験成績表にまとめられている。 15 ☐ パルプ類の平時の状態を示すラベルなどが見やすい状態で表示している。 16 ☐ 計器類に運転時の適用範囲を見やすく表示している。 17 ☐ 回転部や高温部等の危険個所に表示又は防護をしている。 18 ☐ 構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。 19 ☐ 現地状況を勘案し施工方法等について提案を行うなど、積極的に取り組んでいる。 20 ☐ その他理由： 該当項目が80%以上・・・・・・・・・・a 該当項目が60%以上80%未満・・・・・・・・b 該当項目が60%未満・・・・・・・・・・c ÷ = %				

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の□に✓マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(監督員・主任監督員)

考査項目	細別	a	b	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	電気設備工事	品質管理が適切である	品質管理がほぼ適切である	他の評価に該当しない	品質管理がやや不備である	品質管理が不備である
II. 品質	電気通信・受変電設備工事	[評価対象項目] 1 ☐ 製作着手前に、品質や性能の確保に係る技術検討を実施している。 2 ☐ 材料、部品の品質照合の結果が、品質保証書等（現物照合を含む）で確認でき、設計図書の仕様を満足している。 3 ☐ 機器の品質、機能及び性能が、設計図書を満足し、成績書にまとめている。 4 ☐ 操作スイッチや表示灯が承諾図書のとおり配置され、操作性に優れている。 5 ☐ ケーブル及び配管の接続などの作業が施工計画書に記載された手順に沿って行われ、不具合が無い。 6 ☐ 設備の機能及び性能が設計図書の仕様を満足している。 7 ☐ 操作制御関係の機能及び性能が、仕様を満足しているとともに、必要な安全装置及び保護装置の作動が確認できる。 8 ☐ 設備の総合性能が、設計図書の仕様を満足している。 9 ☐ 現場条件によって機器（製品）の機能及び性能が確認できない場合において、工場試験などで確認している。 10 ☐ 設備全体についての取扱説明書を工夫し作成（修繕（改造・更新含む）の場合は、修正又は更新）している。 11 ☐ 完成図書で定期的な点検や交換を要する部品及び箇所を明示している。 12 ☐ 設備の構造において、点検や消耗品の取替え作業が容易にできるよう工夫している。 13 ☒ その他理由：				

☐

品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で改善指示を行った。

上記該当事項があれば・・・d

☐

契約約款第17条に基づき、工事監督員が改造請求を行った。

上記該当事項があれば・・・e

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。

② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。

③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。

該当項目が80％以上・・・・・・・・・・a

該当項目が60％以上80％未満・・・・・・・・b

該当項目が60％未満・・・・・・・・・・c

÷

=

%

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入する。				(監督員・主任監督員)
考査項目	細別	技術力キーワード一覧表	備 考	
5. 創意工夫	I. 創意工夫	■準備・後片付け関係		
		■施工関係 ☐ 1. 施工に伴う器具、工具、装置等に関する工夫又は設備据付後の試運転調整に関する工夫。 ☐ 2. コンクリート二次製品などの代替材の利用に関する工夫。 ☐ 3. 土工、地盤改良、橋梁架設、舗装、コンクリート打設等の施工に関する工夫。 ☐ 4. 部材並びに機材等の運搬及び吊り方式などの施工方法に関する工夫。 ☐ 5. 設備工事における加工や組立等又は電気工事における配線や配管等に関する工夫。 ☐ 6. 給排水工事や衛生設備工事等における配管又はポンプ類の凍結防止、配管のつなぎ等に関する工夫。 ☐ 7. 照明などの視界の確保に関する工夫。 ☐ 8. 仮排水、仮道路、迂回路等の計画的な施工に関する工夫。 ☐ 9. 運搬車両、施工機械等に関する工夫。 ☐ 10. 支保工、型枠工、足場工、仮桟橋、覆工板、山留め等の仮設工に関する工夫。 ☐ 11. 盛土の締固度、杭の施工高さ等の管理に関する工夫。 ☐ 12. 施工計画書の作成、写真の管理等に関する工夫。 ☐ 13. 出来形又は品質の計測、集計、管理図等に関する工夫。 ☐ 14. 施工管理ソフト、土量管理システム等の活用に関する工夫。 ☐ 15. 特殊な工法や材料を用いた工事。 ☐ 16. 優れた技術力又は能力として評価する技術を用いた工事。 ☐ 17. その他：		
		■品質関係 ☐ 18. 土工、設備、電気の品質向上に関する工夫。 ☐ 19. コンクリートの材料、打設、養生に関する工夫。 ☐ 20. 鉄筋、P C ケーブル、コンクリート二次製品等の使用材料に関する工夫。 ☐ 21. 配筋、溶接作業等に関する工夫。 ☐ 22. その他：		

※1. 「2. 施工状況」「3. 出来形及び出来ばえ」においても創意工夫は加点対象とされるが、企業努力を引き立たせるため、本考査項目でも再評価する。
※2. 創意工夫は「実用新案・特許クラス」から「現場に適用した本当に些細な工夫ではあるが、非常に役立つ軽微な工夫」まで様々なレベルがあるが、本項目では軽微なものを評価する。
※3. キーワードの評価（選定）及び詳細評価は、総括監督員との合議をもって記述する。
※4. 設計変更の対象としない工法や施工段取り等で軽微な行為を記述。

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入する。

(監督員・主任監督員)

考査項目	細別	技術力キーワード一覧表	備 考
5. 創意工夫	I. 創意工夫	■安全衛生関係 ☐ 23. 安全を確保するための仮設備等に関する工夫。 (落下物、墜落・転落、挟まれ、看板、立入禁止柵、手摺り、足場等) ☐ 24. 安全教育、技術向上講習会、安全パトロール等に関する工夫。 ☐ 25. 現場事務所、労務者宿舍等の空間及び設備等に関する工夫。 ☐ 26. 有毒ガス並びに可燃ガスの処理及び粉塵防止並びに作業中の換気等に関する工夫。 ☐ 27. 一般車両突入時の被害軽減方策又は一般交通の安全確保に関する工夫。 ☐ 28. 厳しい作業環境の改善に関する工夫。 ☐ 29. 環境保全に関する工夫。 ☐ 30. その他：	
		■新技術活用 ☐ 31. NETIS登録技術のうち推奨技術、準推奨技術、活用促進技術を活用している。 (品質・施工性の確保・向上等に効果のある場合に限る)	
		■その他 ☐ ☐	
	記述評価 【✔マークを付けた キーワード項目につい て、評価内容を詳細記 述】	評点： _____ 点 ※・特に評価すべき創意工夫事例を加点評価する。 ・加点は0点～7点の範囲とする。 ・該当キーワード数の数と重みを勘案して評価する。 1項目1点を目安とするが、内容によってはそれ 以上または以下の点数を与えてもよい。	【創意工夫の詳細評価】

※1. 「2. 施工状況」「3. 出来形及び出来ばえ」においても創意工夫は加点対象とされるが、企業努力を引き立たせるため、本考査項目でも再評価する。

※2. 創意工夫は「実用新案・特許クラス」から「現場に適用した本当に些細な工夫ではあるが、非常に役立つ軽微な工夫」まで様々なレベルがあるが、本項目では軽微なものを評価する。

※3. キーワードの評価（選定）及び詳細評価は、総括監督員との合議をもって記述する。

※4. 設計変更の対象としない工法や施工段取り等で軽微な行為を記述。

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(総括監督員)

考査項目	細別	a	b	c	d	e
2. 施工状況	Ⅱ. 工程管理	工程管理が優れている	工程管理がやや優れている	他の評価に該当しない	工程管理がやや不備である	工程管理が不備である
		[評価対象項目] 1 ☐ 隣接する他の工事などとの工程調整に取り組み、遅れを発生させることなく工事を完成させた。 2 ☐ 地元及び関係機関との調整に取り組み、遅れを発生させることなく工事を完成させた。 3 ☐ 工程管理を適切に行ったことにより、休日や夜間工事の回避等を行い、工事による地域への影響を軽減させた。 4 ☐ 工程管理に係る積極的な取り組みが見られた。 5 ☐ 災害復旧工事など特に工期的な制約がある場合において、余裕をもって工事を完成させた。 6 ☐ 工事施工箇所が広範囲に点在している場合において、工程管理を的確に行い、余裕をもって工事を完成させた。 7 ☒ その他理由：				

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(総括監督員)

考査項目	細別	a	b	c	d	e
2. 施工状況	III. 安全対策	安全対策が優れている	安全対策がやや優れている	他の評価に該当しない	安全対策がやや不備である	安全対策が不備である
	〔評価対象項目〕 1 ☐ 建設労働災害及び公衆災害の防止に向けた取り組みが顕著であった。 2 ☐ 安全衛生を確保するための管理体制を整備し、組織的に取り組んだ。 3 ☐ 安全衛生を確保するため、他の模範となるような活動に積極的に取り組んだ。 4 ☐ 安全対策に関する技術開発や創意工夫に取り組んだ。 5 ☐ 災害防止（工事安全）協議会等での活動に積極的に取り組んだ。 6 ☐ 安全対策に係る取り組みが地域から評価された。 7 ☒ その他理由：	※上記該当項目を総合的に判断して、a、b、c、d、e 評価を行う。				

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕該当する項目の□に✔マーク、「・」に○を記入する。 （総括監督員）

審査項目	細別	技術力キーワード一覧表	備 考
4. 工事特性	Ⅰ. 施工条件への対応	Ⅰ 構造物の特殊性への対応 ☐ 1. 対象構造物の高さ、延長、施工（断）面積、施工深度等の規模が特殊な工事 ☐ 2. 対象構造物の形状が複雑であることなどから、施工条件が特に変化する工事 ☐ 3. その他理由（ ）	【規模が特殊な工事】下記の該当する項目が、工事特性で評価できる場合 ・切土の土工量10万m3以上、盛土の土工量8万m3以上 ・トンネル内空面積(NATM) 50m2以上、(沈埋工法) 150m2以上 ・ダム堤高40m以上、砂防ダム堤高15m以上 ・護岸・築堤の平均高5m以上 ・ダム用水門の設置 水深13m以上 ・樋門、樋管の内管空面積8m2以上 ・浚渫土量50万m3以上 ・橋梁下部工 高さ15m以上 ・転流トンネル 流下能力200m3/s以上 ・トンネル(シールド) 直径4m以上 ・トンネル(開削) 開削深さ10m以上 ・揚排水機場 吐出管径1000mm以上 ・流路工 計画高水量250m3以上 ・橋梁上部工 最大支間長30m以上 ・パイプライン管径2000mm ・海岸堤防、護岸、突堤、離岸堤、水深5m以上 ・地滑り防止工 幅50m以上かつ法長75m以上 ・堰、水門 最大径間長25m以上又は径間数2径間以上 ・堰又は水門の扉体面積25m2/門以上 ・掛樋工、樋管の延長30m以上 ・頭首工 径間数4径間以上
		※上記の対応事項に1つ以上✔が付けば 4点の加点とする。	【施工条件が特に変化する工事】下記の該当する項目が、工事特性で評価できる場合 ・砂防工事等で現地調査に基づき、現地合わせの再設計施工が必要な工事。 ・鉄道営業線に隣接した橋脚の耐震補強工事や河道内の流水部における橋脚撤去工事。 ・供用中の道路トンネルの拡幅工事。 【その他】 ・その他構造物固有の難しさへの対応が特に必要な工事。 ・その他技術固有の難しさへの対応が必要な工事。 ・地山強度が低い又は土被りが薄いため、FEM解析等の施工のための検討が必要な工事。
		Ⅱ 都市部等の作業環境、社会条件等への対応 ☐ 4. 地盤の変形、近接構造物、地中埋設物への影響に配慮する工事 ☐ 5. 周辺環境条件により、作業条件、工程等に大きな影響を受ける工事 ☐ 6. 周辺住民等に対する騒音・振動を特に配慮する工事 ☐ 7. 現道上での交通規制に大きく影響する工事 ☐ 8. 事故や災害発生直後の緊急的な対応が必要な工事 ☐ 9. 施工箇所が広範囲にわたる工事 ☐ 10. その他理由（ ）	【4について】 ・供用中の鉄道又は道路と交差する橋梁などの工事。 ・監視などの結果に基づき、工法の変更を行った工事。 【5について】 ・ガス管、水道管、電話線等の支障物件の移設について、施工工程の管理に特に注意を要した工事。 ・地元調整や環境対策などの制約が特に多い工事。 ・その他各種制約があり、施工に特に厳しい制限を受けた工事。 【6について】 ・市街地での夜間工事。 ・D I D地区での工事。 【7について】 ・日交通量が概ね1万台以上の道路で片側交互通行の交通規制をした工事。 ・工事期間中の大半にわたって、交通開放を行うため規制標識類の設置・撤去を日々行った工事。 【8について】 ・事故や災害発生直後の緊急的な工事で、24時間対応の施工等により早期の完成が求められる工事。 ・作業現場が広範囲に分布している工事。 【9について】 【10について】 ・施工ヤードの広さや高さに制限があり、機械の使用など施工に制約を受けた工事。 ・その他、周辺環境又は社会条件への対応が特に必要な工事。
		Ⅲ 厳しい自然・地盤条件への対応 ☐ 11. 特殊な地盤条件への対応が必要な工事 ☐ 12. 雨・雪・風・気温・波浪等の自然条件の影響が大きな工事 ☐ 13. 被災箇所や急峻な地形及び土石流危険渓流内での工事 ☐ 14. 動植物等の自然環境の保全に特に配慮しなければならない工事 ☐ 15. その他理由（ ）	【11について】 ・河川内の橋脚工事において地下水位が高く、ウェルポイント工法などによる排水や大規模や山留めなどが必要な工事。 ・支持基盤の形状が複雑なため、深礎杭基礎毎に地質調査を実施する他、支持地盤を確認しながら再設計した工事。 ・施工不可能日が多いことから、施工機械の稼働率や台数等を的確に把握する必要が生じた工事。 【12について】 ・海岸及び河川区域内のため、設計書で計上する以上に波浪等の影響で不稼働日が多く、主に作業船や台船を使用する工事。 ・潜水夫を多用した工事又は波浪や水位変動が大きい作業構台等を設置した工事。 【13について】 ・被災箇所における二次災害の危険性に対する注意が必要とされる工事。 ・急峻な地形のため、作業構台や作業床の設置が制限される工事。または命綱を使用する必要があった工事。（法面工は除く） ・斜面上又は急峻な地形直下での工事のため、工事に伴う地滑り防止対策等の安全対策を必要とした工事。 ・土石流危険渓流に指定された区域内における工事。 【14について】 ・イヌワシ等の猛禽類などの貴重な動植物への配慮のため、工程や施工方法に制約を受けた工事。 【15について】 ・その他、自然条件又は地盤条件への対応が必要であった工事。 ・その他、災害等における臨時の措置のうち特に評価すべき事項が認められる工事。
	Ⅳ 長期工事における安全確保への対応 ☐ 16. 12ヶ月を超える工期で、事故がなく完成した工事 ※但し、文書注意に至らない事故は除く。 ☐ 17. その他理由（ ） ※上記の対応事項に1つ以上✔が付けば 6点の加点とする。	【16について】 ・受注者の責によらない工期延期により工期が12ヶ月を超えたものを含む。 ・工事の全面及び一時中止期間を除く実質工期とする。	
記述評価	【✔マークを付けたキーワード項目について、評価内容を詳細記述】	_____ 評点： _____ 点 ※1 工事特性は、最大20点の加点評価とする。 ※2 評価にあたっては、主任監督職員等の意見も参考に評価する。	【工事特性の詳細評価】

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(総括監督員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c
6. 社会性等	I. 地域への貢献等	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない
		〔評価対象項目〕 1 ☐ 周辺環境への配慮に積極的に取り組んだ。 2 ☐ 現場事務所や作業現場の環境を周辺地域との景観に合わせるなど、積極的に周辺地域との調和を図った。 3 ☐ 定期的に広報紙の配布や現場見学会等を実施して、積極的に地域とのコミュニケーションを図った。 4 ☐ 道路清掃などを積極的に実施し、地域に貢献した。 5 ☐ 地域が主催するイベントへ積極的に参加し、地域とのコミュニケーションを図った。 6 ☐ 災害時などにおいて、地域への支援又は行政などによる救援活動への積極的な協力を行った。 7 ☒ その他理由：				

※上記該当項目の数と重みを勘案し総合的に判断して、a1、a2、b1、b2、c評価を行う。
(c評価を基準とし、1項目1ランクアップを目安とするが、内容によっては2ランクアップも可とする。)

※地域への貢献とは、工事の施工にともなって、地域社会や住民に対する配慮などの貢献について、加点評価する。

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、必要に応じて点数を記入する。

(総括監督員)

考査項目	法令		
8. 法令遵守等	<table><tr><td> ☐ 1 指名停止 3 ヶ月以上 ☐ 2 指名停止 2 ヶ月以上 3 ヶ月未満 ☐ 3 指名停止 1 ヶ月以上 2 ヶ月未満 ☐ 4 指名停止 2 週間以上 1 ヶ月未満 ☐ 5 坂出市建設工事指名停止等措置要領における文書注意 ☐ 6 坂出市建設工事指名停止等措置要領における口頭注意 ☐ 7 工事関係者事故又は公衆災害が発生したが、当該事故に係る安全管理の措置の不適切な程度が軽微なため、坂出市建設工事指名停止等措置要領における口頭注意以上の処分が行われなかった場合 ☐ 8 総合評価落札方式による入札を行った工事について、落札者の決定に反映された技術提案が履行できなかった場合。交通事故防止取組計画を策定している工事において、工事の施工にあたり工事関係者（二次下請け以降を除く）が交通死亡事故をおこした場合はさらに－3点とする。 </td><td> － 20 点 － 15 点 － 13 点 － 10 点 － 8 点 － 5 点 － 3 点 － 点 </td></tr></table> ☐ 該当項目なし 左記表の 1 ～ 7 の該当項目と 8 の和 － 点 ①本評価項目（8. 法令遵守等）で評価する事例は、「工事の施工にあたり、工事関係者が下記の適応事例で上表の措置があった」場合に適用する。 ②「工事の施工にあたり」とは、請負契約書の記載内容（工事名、工期、施工場所等）を履行することに限定する。 ③「工事関係者」とは、②を履行する工事現場に従事する現場代理人、監理技術者、監理技術者補佐、主任技術者、品質証明員、請負会社の現場従事職員及び②を履行するために下請負人として契約し、それを履行するために当該工事現場に従事するものに限定する。 【上記で評価する場合の適応事例】 - 入札前に提出した調査資料等が虚偽であった事実が判明した。 - 承諾なしに権利義務等第三者譲渡又は継承を行った。 - 宿舍環境等の使用人等に関する労働条件に問題があり、送検等された。 - 産業廃棄物処理法に違反する不法投棄、砂利採取法に違反する無許可採取等、関係法令に違反する事実が判明した。 - 当該工事関係者が贈収賄等により逮捕または告訴された。 - 建設業法に違反する事実が判明した。例）一括下請（上請）、技術者の専任違反等 - 入国管理法に違反する外国人の不法労働者が判明し、送検等された。 - 使用人等の就労に関する労働基準法に違反する事実が判明し、送検等された。 - 監督または検査の実施にあたり、職務の執行を妨げた。あるいは不当な政治力等の圧力をかけ、妨害した。 - 下請代金遅延防止法第 4 条に規定する下請代金の支払いを期日に行っていない。あるいは不当に下請代金の額を減じている。あるいはそれに類する行為がある。 - 過積載等の道路交通法違反により、逮捕または送検等された。 - 受注企業の社員に「指定暴力団」あるいは「指定暴力団の傘下組織（団体）」に所属する構成員、準構成員、企業舎弟等、暴力団関係者がいることが判明した。 - 下請けに暴力団関係企業が入っていることが判明した。あるいは暴力団対策法第 9 条に記されている、砂利、砂、防音シート、軍手等の物品の納入、土木作業員やガーの受入れ、土木作業員用の自動販売機の設置等を行っている事実が判明した。 - 安全管理の処理が不適切であったために、死傷者を生じさせた工事関係者事故、または重大な損害を与えた公衆災害を起こした。 - 施工体制台帳、施工体系図が不備で、監督職員から文書等による改善指示を行ったが、これに従わなかった。 - 社会保険等未加入業者と下請契約を締結していることが判明した。 - その他（理由：）	☐ 1 指名停止 3 ヶ月以上 ☐ 2 指名停止 2 ヶ月以上 3 ヶ月未満 ☐ 3 指名停止 1 ヶ月以上 2 ヶ月未満 ☐ 4 指名停止 2 週間以上 1 ヶ月未満 ☐ 5 坂出市建設工事指名停止等措置要領における文書注意 ☐ 6 坂出市建設工事指名停止等措置要領における口頭注意 ☐ 7 工事関係者事故又は公衆災害が発生したが、当該事故に係る安全管理の措置の不適切な程度が軽微なため、坂出市建設工事指名停止等措置要領における口頭注意以上の処分が行われなかった場合 ☐ 8 総合評価落札方式による入札を行った工事について、落札者の決定に反映された技術提案が履行できなかった場合。交通事故防止取組計画を策定している工事において、工事の施工にあたり工事関係者（二次下請け以降を除く）が交通死亡事故をおこした場合はさらに－3点とする。	－ 20 点 － 15 点 － 13 点 － 10 点 － 8 点 － 5 点 － 3 点 － 点
☐ 1 指名停止 3 ヶ月以上 ☐ 2 指名停止 2 ヶ月以上 3 ヶ月未満 ☐ 3 指名停止 1 ヶ月以上 2 ヶ月未満 ☐ 4 指名停止 2 週間以上 1 ヶ月未満 ☐ 5 坂出市建設工事指名停止等措置要領における文書注意 ☐ 6 坂出市建設工事指名停止等措置要領における口頭注意 ☐ 7 工事関係者事故又は公衆災害が発生したが、当該事故に係る安全管理の措置の不適切な程度が軽微なため、坂出市建設工事指名停止等措置要領における口頭注意以上の処分が行われなかった場合 ☐ 8 総合評価落札方式による入札を行った工事について、落札者の決定に反映された技術提案が履行できなかった場合。交通事故防止取組計画を策定している工事において、工事の施工にあたり工事関係者（二次下請け以降を除く）が交通死亡事故をおこした場合はさらに－3点とする。	－ 20 点 － 15 点 － 13 点 － 10 点 － 8 点 － 5 点 － 3 点 － 点		

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の□に✓マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a	b	c	d	e
2. 施工状況	I. 施工管理	施工管理が優れている	施工管理がやや優れている	他の評価に該当しない	施工管理がやや不備である	施工管理が不備である
		[評価対象項目] 1 ☐ 契約約款第18条第1項第1号～第5号に基づく設計図書の照査を行っていることが確認できる。 2 ☐ 施工計画書が工事着手前に提出され、所定の項目が記載されているとともに、設計図書の内容及び現場条件を反映したものとなっていることが確認できる。 3 ☐ 工事期間を通じて、施工計画書の記載内容と現場施工方法が一致していることが確認できる。 4 ☐ 現場条件又は計画内容に重要な変更が生じた場合（工期や数量等の軽微な変更は除く）は、その都度当該工事着手前に変更計画書を提出していることが確認できる。 5 ☐ 工事材料の品質に影響が無いよう工事材料を保管していることが確認できる。 6 ☐ 工事材料の資料の整理及び確認がなされ、管理されている。 7 ☐ 立会確認の手続きを事前に行っていることが確認できる。 8 ☐ 建設廃棄物及び建設副産物の再利用等への取り組みを行っていることが確認できる。 9 ☐ 施工体制台帳及び施工体系図を法令等に沿った内容で的確に整備していることが確認できる。 10 ☐ 品質確保のための対策など、施工に関する独自の工夫がみられる。 11 ☐ 工事の関係書類を不足なく簡潔に整理していることが確認できる。 12 ☐ 社内の管理基準を作成し管理していることが確認できる。 13 ☐ 建退共の証紙が適切に配布され管理できている。 14 ☒ その他理由： 該当項目が90%以上・・・a 該当項目が80%以上90%未満・・・b 該当項目が80%未満・・・c ÷ = %			☐ 施工管理に関して、工事監督員からの文書による改善指示を行った。 上記該当事項があれば・・・d ☐ 施工管理に関して、工事監督員からの文書による改善指示に従わなかった。 上記該当事項があれば・・・e	① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。 ③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合にはc評価とする。

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の□に✓マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e
3. 出来形及び 出来ばえ	I. 出来形 	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね50%以内で、下記の「評定対象項目」の4項目以上が該当する。	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね50%以内で、下記の「評定対象項目」の3項目以上が該当する。	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね80%以内で、下記の「評定対象項目」の3項目以上が該当する。	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね80%以内で、下記の「評定対象項目」の2項目以上が該当する。	☐ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、a～b2に該当しない。		
		[評価対象項目] 1 ☐ 出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図及び出来形管理表を工夫していることが確認できる。 2 ☐ 社内の管理基準に基づき適正に管理していることが確認できる。 3 ☐ 不可視部分の出来形が写真等（工事監督員等が臨場した資料等）で確認できる。 4 ☐ 写真管理基準の管理項目を満足している。 5 ☐ 出来形管理基準が定められていない工種について、工事監督員と協議の上で管理していることが確認できる。 6 ☐ その他理由： ① 出来形の評定は、工事全般を通したものとする。 ② 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状寸法である。 ③ 出来形管理とは、「土木工事施工管理基準」の測定項目、測定基準及び規格値に基づく形状寸法を確保する管理体系である。 ④ ばらつきの考え方は別図参照。 ⑤ 出来形管理項目を設定していない工事はc評価とする。						☐ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で改善指示を行い改善された。 上記該当事項があれば・・・d

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に☑マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	浮栈橋改良(ウレタン注入)工事	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
I. 出来形		〔評価対象項目〕					□ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当事項があれば・・・d	□ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事検査員が修補指示を行った。 上記該当事項があれば・・・e
		1	□ 施工方法・施工管理が設計仕様を満足している。					
		2	□ ウレタン注入作業が設計仕様を満足する施工がなされていることが確認できる。					
		3	□ 不可視部分の出来形が写真、施工記録で確認できる。					
		4	□ プラント及び施工機械が正常に動作したことが写真・施工記録簿等で確認できる。					
		5	□ 主要な施工段階において、段階確認・立会を適時実施し問題がないことが確認できる。					
		6	□ 出来形の形状、寸法、性能、機能が設計値（設計仕様）を満足している。					
		7	□ 周辺養生が設計仕様、施工計画通りに施工し問題がないことが確認できる。					
		8	□ 現場周辺への異常や影響がないように施工していることが確認できる。					
		9	□ 出来形の管理方法に創意工夫がある。					
10	■ その他理由：							
		該当項目が90%以上・・・a1 該当項目が80%以上90%未満・・・a2 該当項目が70%以上80%未満・・・b1 該当項目が60%以上70%未満・・・b2 該当項目が60%未満・・・c ÷ = %					① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。 ③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。	

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	電気設備工事 通信・受変電設備工事	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
I. 出来形		〔評価対象項目〕					☐ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当事項があれば・・・d	☐ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事検査員が修補指示を行った。 上記該当事項があれば・・・e
		1	☐	据付に関する出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図などを工夫している。				
		2	☐	設備全般にわたり、形状及び寸法の実測値が許容範囲内である。				
		3	☐	設備の据付及び固定方法が設計図書又は承諾図書通り施工している。				
		4	☐	設計図書で定められていない出来形管理項目について、監督職員と協議の上で管理している。				
		5	☐	不可視部分の出来形が写真等（工事監督員等が臨場した資料等）で確認できる。				
		6	☐	社内の管理基準に基づき管理している。				
		7	☐	機器等の測定（試験）結果が、その都度出来形管理図及び出来形管理表などに記録され、適切に管理している。				
		8	☐	配管及び配線が、設計図書又は承諾図書通りに敷設している。				
		9	☐	測定機器のキャリブレーションを、定期的を実施している。				
		10	☐	行先などを表示した名札がケーブルなどに分かり易く堅固に取り付けている。				
		11	☐	配管及び配線の支持間隔や絶縁抵抗等について、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。				
12	☒	その他理由：						
該当項目が90%以上・・・a1 該当項目が80%以上90%未満・・・a2 該当項目が70%以上80%未満・・・b1 該当項目が60%以上70%未満・・・b2 該当項目が60%未満・・・c						① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。 ③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。		

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の□に✓マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	機械設備工事	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
I. 出来形		[評価対象項目]					☐ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で改善指示を行った。 上記該当事項があれば・・・d	☐ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事検査員が修補指示を行った。 上記該当事項があれば・・・e
		1	☐	据付に関する出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図などを工夫している。				
		2	☐	設備全般にわたり、形状及び寸法の実測値が許容範囲内である。				
		3	☐	施工管理基準の撮影記録が撮影基準を満足している。				
		4	☐	設計図書で定められていない出来形管理項目について、監督職員と協議の上で管理している。				
		5	☐	不可視部分の出来形が写真等（工事監督員等が臨場した資料等）で確認できる。				
		6	☐	社内の管理基準に基づき管理している。				
		7	☐	塗装管理基準の塗膜厚管理を適切にまとめている。				
		8	☐	溶接管理基準の出来形管理を適切にまとめている。				
		9	☐	設計図書に定められている予備品に不足が無い。				
		10	☐	分解整備における既設部品等の摩耗、損傷等について、整備前と整備後の劣化状況及び回復状況を図表等に記録している。				
11	☒	その他理由：						
該当項目が90%以上・・・a1 該当項目が80%以上90%未満・・・a2 該当項目が70%以上80%未満・・・b1 該当項目が60%以上70%未満・・・b2 該当項目が60%未満・・・c ÷ = %						① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。 ③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。		

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の□に✓マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	舗装工事	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
Ⅱ. 品質		[評価対象項目]					☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当事項があれば・・・d	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事検査員が修補指示を行った。 上記該当事項があれば・・・e
		1	☐	設計図書に定められた試験方法でCBR値を測定していることが確認できる。				
		2	☐	路床及び路盤工のプルーフローリングを行っていることが確認できる。				
	路盤・路床工事関係	3	☐	路床及び路盤工の密度管理が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。				
		4	☐	路盤の安定処理は材料が均一になるよう施工していることが確認できる。				
		5	☐	路盤の施工に先立って、路床面、下層路盤面の浮き石及び有害物を除去してから施工していることが確認できる。				
		6	☐	路床盛土において、一層の仕上がり厚を20cm以下とし、各層ごとに締固めて施工していることが確認できる。				
		7	☐	路床盛土において、構造物の隣接箇所や狭い箇所における締固めが、タンパ等の小型締固め機械により施工していることが確認できる。				
	アスファルト舗装関係	8	☒	その他理由：				
		9	☐	アスファルト混合物の品質が、配合設計及び試験練りの結果又は事前審査制度の証明書類により確認できる。				
		10	☐	舗装工の施工にあたって、上層路盤面の浮き石などの有害物を除去していることが確認できる。				
		11	☐	プラント出荷時、現場到着時、舗設時等において、アスファルト混合物の温度管理を記録していることが確認できる。				
		12	☐	舗設後の交通開放が、定められた条件を満足していることが確認できる。				
		13	☐	各層の継ぎ目の位置が、設計図書に定められた数値以上であることが確認できる。				
		14	☐	縦継目及び横継目の位置、構造物との接合面の処理等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。				
		15	☐	アスファルト混合物の運搬及び舗設にあたって、気象条件を配慮していることが確認できる。				
		16	☐	密度管理が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。				
	17	☒	その他理由：					
	次項へ続く							

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の□に☑マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	舗装工事	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
Ⅱ. 品質	コンクリート舗装工関係	[評価対象項目]						
		18	☐	コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質（強度・w/c、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等）が確認できる。				
		19	☐	舗装工の施工に先立って、上層路盤面の浮き石等の有害物を除去してから施工していることが確認できる。				
		20	☐	コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。				
		21	☐	圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が当該現場の供試体であることが確認できる。				
		22	☐	運搬時間、打設方法及び養生方法が、施工条件及び気象条件に適しており、設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。				
		23	☐	材料が分離しないようコンクリートを敷均していることが確認できる。				
		24	☐	チェアー及びタイバーを損傷などが発生しないよう保管していることが確認できる。				
25	☒	その他理由：						
		該当項目が90%以上・・・a1 該当項目が80%以上90%未満・・・a2 該当項目が70%以上80%未満・・・b1 該当項目が60%以上70%未満・・・b2 該当項目が60%未満・・・c					① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。 ③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。	
		÷ = %						

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	道路改良工事	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
Ⅱ. 品質	共通	〔評価対象項目〕					☐品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当事項があれば・・・d	☐品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事検査員が修補指示を行った。 上記該当事項があれば・・・e
		1	☐	施工にあたって、床掘箇所の湧水及び滞水等は、排除して施工していることが確認できる。				
		2	☐	埋戻し材料について、適切なものを使用していることが確認できる。				
		3	☐	基礎工において、掘り過ぎが無く施工していることが確認できる。				
		4	☐	構造物周辺の締固めを、定められた条件で行っていることが確認できる。				
		5	☐	施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。				
		6	☐	コンクリート受け入れ時に、温度、スランプ、空気量等必要な試験を実施しており、測定結果が確認できる。				
		7	☐	施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。（寒中及び暑中コンクリート等を含む）				
		8	☐	型枠及び支保工の取り外しにおいて、必要なコンクリート強度で行っていることが確認できる。				
		9	☐	裏込材及び胴込めコンクリートの締固めを、空隙が生じないように十分に行っていることが確認できる。				
		10	☐	コンクリート既製品やコンクリートブロック等を損傷なく設置していることが確認できる。				
		11	☐	鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。				
		12	☐	鉄筋、その他指定材料の品質が、証明書類で確認できる。				
		13	☐	路床及び路盤工のプルフローリングを行っていることが確認できる。				
14	☒	その他理由：						
該当項目が90%以上・・・a1 該当項目が80%以上90%未満・・・a2 該当項目が70%以上80%未満・・・b1 該当項目が60%以上70%未満・・・b2 該当項目が60%未満・・・c						① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。 ③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。		

÷=%

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e		
3. 出来形及び出来ばえ	下水道工事	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない				
II. 品質		〔評価対象項目〕					☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で指示を行い改善された。	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事検査員が修補指示を行った。		
	共通	1 ☐ マンホール製品の規格・品質がミルシートで確認できる。 2 ☐ 管渠の規格・品質がミルシートで確認できる。 3 ☐ 設計図書に基づくコンクリートの配合試験及び試験練りが行われており、適切なコンクリートの規格が確認できる。 4 ☐ コンクリート打設時の必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できる。 5 ☐ コンクリート供試体が当該現場の供試体であることが確認できる。 6 ☐ 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ、締め時のバイブレータの機種、養生方法等適切に行っている。 7 ☐ インパートは形状、勾配等が適正で、表面の仕上が適切であることが確認できる。 8 ☐ 管渠施設内に土砂、モルタル、その他材料の断片等がなく清掃されていることが確認できる。 9 ☐ 埋戻において締固めが適切な方法で施工されており、工事終了後の沈下が見られないことが確認できる。					上記該当事項があれば・・・d	上記該当事項があれば・・・e		
	開削工	10 ☐ 締固めを適切な条件で施工しており、管の周辺に空隙が生じていない。 11 ☐ アスファルト混合物の温度管理が、プラント出荷時・現場到着時・舗設時で整理・記録されている。								
	推進工	12 ☐ 管渠の接合状況が良好であることが確認できる。 13 ☐ 測量及び観測結果を毎日整理し、それに基づいた施工が行われていることが確認できる。 14 ☐ 常に切羽及び地表面の状態を観測して施工されていることが確認できる。 15 ☐ 推進作業等がデータで確認できる。 16 ☐ 地盤改良工の施工管理状況がデータで確認できる。 17 ☒ その他理由：								
		該当項目が90%以上・・・a1 該当項目が80%以上90%未満・・・a2 該当項目が70%以上80%未満・・・b1 該当項目が60%以上70%未満・・・b2 該当項目が60%未満・・・c ÷ = %					① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。 ③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。			

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	コンクリート構造物工事	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
Ⅱ. 品質	共通	〔評価対象項目〕					☐品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当事項があれば・・・d ☐品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事検査員が修補指示を行った。 上記該当事項があれば・・・e	
		1	☐	コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質（強度・w／c、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等）が確認できる。				
		2	☐	コンクリート打設時に必要な供試体を採取し、強度、スランプ、空気量等が確認できる。				
		3	☐	圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。				
		4	☐	施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。（寒中及び暑中コンクリート等を含む）				
		5	☐	コンクリートの圧縮強度を管理し、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っていることが確認できる。				
		6	☐	コンクリートの打設前に、打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。				
		7	☐	鉄筋の品質が、証明書類で確認できる。				
		8	☐	コンクリート打設までにさび、どろ、油等の有害物が鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。				
		9	☐	鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。				
		10	☐	圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っていることが確認できる。				
		11	☐	コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。				
		12	☐	スペーサーの品質及び個数が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。				
		13	☐	有害なクラックが無い。（進行性のクラックで無く、発生したクラックに対しては有識者の意見に基づく適切な処理を行っている。）				
14	☐	その他理由：						
		該当項目が90%以上・・・a1 該当項目が80%以上90%未満・・・a2 該当項目が70%以上80%未満・・・b1 該当項目が60%以上70%未満・・・b2 該当項目が60%未満・・・c		÷ = %		① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。 ③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。		

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の□に✓マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	護岸・根固・水制工事	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
II. 品質	共通	[評価対象項目]					☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当事項があれば・・・d	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事検査員が修補指示を行った。 上記該当事項があれば・・・e
		1	☐	施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。				
		2	☐	裏込材及び胴込めコンクリートの締固めを、空隙が生じないよう十分に行っていることが確認できる。				
		3	☐	緑化ブロック、石積（張）、法枠、かごマット等における材料のかみ合わせ又は連結が、裏込材の吸出しが無いよう行っていることが確認できる。				
		4	☐	石積（張）工において、大きさ及び重さが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。				
		5	☐	護岸工の端部や曲線部の処理が適切であり、必要な強度及び水密性を確保していることが確認できる。				
		6	☐	遮水シートが所定の幅で重ね合わされ、端部処理が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。				
		7	☐	植生工で、植生の種類、品質、配合及び養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。				
		8	☐	根固工、水制工、沈床工、捨石工等において、材料の連結及びかみ合わせが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。				
		9	☐	指定材料の品質が、証明書類で確認できる。				
		10	☐	基礎工において、掘り過ぎが無く施工していることが確認できる。				
		11	☐	コンクリートブロック等を損傷無く設置していることが確認できる。				
		12	☐	施工にあたって、床掘箇所の湧水及び滞水等は、排除して施工していることが確認できる。				
		13	☐	埋戻し材料について、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。				
		14	☐	有害なクラックが無い。（進行性のクラックで無く、発生したクラックに対しては有識者の意見に基づく適切な処置を行っている。）				
15	☒	その他理由：						
該当項目が90%以上・・・a1 該当項目が80%以上90%未満・・・a2 該当項目が70%以上80%未満・・・b1 該当項目が60%以上70%未満・・・b2 該当項目が60%未満・・・c						① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、率（％）計算の値で評価する。 ③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。 ÷ = %		

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✓マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e	
3. 出来形及び出来ばえ	二次製品水路工事	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない			
Ⅱ. 品質	共通	〔評価対象項目〕					☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当事項があれば・・・d	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事検査員が修補指示を行った。 上記該当事項があれば・・・e	
		1	☐	仕様書等で定めている材料の品質証明書等が整備されている。					
		2	☐	二次製品の材料の保管管理が適切であることが確認できる。					
		3	☐	掘削面に崩壊・過掘が無く、施工基面が平滑に仕上げられている。					
		4	☐	中心線及び縦断勾配については、図面どおり適切に施工されている。					
		5	☐	製品周辺の盛土・埋戻の施工にあたり、締固め（まき出し・転圧）が適正に行われている。					
		6	☐	二次製品の吊込み・据付方法は仕様書どおりに施工されているのが確認できる。					
		7	☐	二次製品の吊込み・据付の際に、十分な注意を払っていることが確認できる。					
	構造物工	8	☐	継目部の目地モルタル・敷モルタルが仕様書等のとおり適切に施工されていることが確認できる。					
		9	☐	製品の継目部には隙間・ズレがなく、適切に施工されている。					
		10	☐	構造物工コンクリートの配合試験及び試験練を行っており、コンクリートの品質（強度・w/c・最大骨材粒径・塩化物総量・単位水量・アルカリ骨材反応抑制等）が確認できる。					
		11	☐	コンクリート打設時に必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できる。					
		12	☐	圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。					
		13	☐	コンクリートの圧縮強度を管理し、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っていることが確認できる。					
		14	☐	コンクリート打設までの鉄筋の保管管理が適正であることが確認できるとともに、鉄筋の組立・加工が適正であることが確認できる。					
その他	15	☒	その他理由：						
	該当項目が90%以上・・・・・・・・・・a1 該当項目が80%以上90%未満・・・・・・・・a2 該当項目が70%以上80%未満・・・・・・・・b1 該当項目が60%以上70%未満・・・・・・・・b2 該当項目が60%未満・・・・・・・・・・・・・c					□ ÷ □ = □ %			

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。
② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。
③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e	
3. 出来形及び出来ばえ	橋梁修繕（ひび割れ補修・断面修復工等）	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない			
Ⅱ. 品質		〔評価対象項目〕					☐品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当事項があれば・・・d ☐品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事検査員が修補指示を行った。 上記該当事項があれば・・・e		
	ひび割れ補修工	1	☐	施工前に、クラックを中心にワイヤーブラシ、ディスクサンダー等で表面の汚れ、付着物等を除去していることが確認できる。					
		2	☐	使用材料の特性を理解したうえで天候等現場状況を確認し、気温・湿度等の計測を行い作業していることが確認できる。					
		3	☐	主剤と硬化剤の攪拌、配合や可使時間が適切に管理されていることが確認できる。					
		4	☐	注入器具を所定の間隔でひび割れの中心に設置し、シール材の硬化時間を確認してから、注入していることが確認できる。					
		5	☐	ひび割れ表面をシール材で確実に閉塞しており、注入にあたって注入材の漏れ、ダレがないことが確認できる。					
		6	☐	注入器、シール材、コンクリート表面に付着した注入材等をワイヤーブラシ、ディスクサンダー等で完全に除去していることが確認できる。					
	表面含浸・塗装工	7	☐	高圧洗浄水等で洗浄し、施工面に付着物等が無く清掃されていることが確認できる。					
		8	☐	施工時の天候、気温及び湿度、コンクリート表面の水分量等の施工条件を管理し、適切な条件下で塗布していることが確認できる。					
		9	☐	規程の回数で塗布されており、空缶管理等により、基準塗布厚を満足していることが確認できる。					
		10	☐	使用材料の特性を十分に理解し、塗布した箇所を適切に管理し塗り抜け無く施工していることが確認できる。					
		11	☐	塗布後の養生が適切に施工されていることが確認できる。					
		12	☐	健全部に損傷を与えないよう不良部を完全に撤去し、ブラシ、若しくはエア等ではつり面の清掃を行っていることが確認できる。					
	断面修復工	13	☐	発錆している鉄筋の裏側まではつり取り、鉄筋の錆を完全に除去後、速やかに防錆剤を塗布していることが確認できる。					
		14	☐	攪拌、配合が適正に管理され、使用材料に適した可使時間内の施工が確認できる。					
		15	☐	断面補修材の強度試験等を実施していることが確認出来る。					
		16	☐	1回当たりの施工厚は、材料特性を確認し規定の厚さで施工していることが確認できる。					
		17	☐	施工後は直射日光、風等が当たらないようにシートがけ養生を行っていることが確認できる。					
18		☐	その他理由：						
その他									
		該当項目が90%以上・・・a1 該当項目が80%以上90%未満・・・a2 該当項目が70%以上80%未満・・・b1 該当項目が60%以上70%未満・・・b2 該当項目が60%未満・・・c				÷ = %	① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。 ③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。		

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	塗装工事	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
Ⅱ. 品質	共通	〔評価対象項目〕 1 ☐ 塗装作業にあたり、塗布面を十分に乾燥させて施工していることが確認できる。 2 ☐ ケレンを入念に実施していることが確認できる。 3 ☐ 天候状況の確認、気温及び湿度の測定を行い、塗装作業を行っていることが確認できる。 4 ☐ 塗料を使用前に攪拌し、容器の塗料を均一な状態にしてから使用していることが確認できる。 5 ☐ 鋼材表面及び被塗装面の汚れ、油類等を除去し塗装を行っていることが確認できる。 6 ☐ 塗料の空缶管理について写真等で確実に空であることが確認できる。 7 ☐ 塗り残し、ながれ、しわ等が無く塗装されていることが確認できる。 8 ☐ 溶接部、ボルトの接合部分、構造の複雑な部分について、必要な塗膜厚を確保していることが確認できる。 9 ☐ 塗料の品質が出荷証明書、塗料成績表により、製造年月日、ロット番号、色彩、数量が確認できる。 10 ☒ その他理由：						

該当項目が90%以上・・・・・・・・・・a1

該当項目が80%以上90%未満・・・・・・・・a2

該当項目が70%以上80%未満・・・・・・・・b1

該当項目が60%以上70%未満・・・・・・・・b2

該当項目が60%未満・・・・・・・・・・c

÷

=

%

☐品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で指示を行い改善された。

上記該当事項があれば・・・d

☐品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事検査員が修補指示を行った。

上記該当事項があれば・・・e

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。

② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。

③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✓マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	ブロック製作工事（ケーソン陸上製作工事を含む）	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
II. 品質	共通	[評価対象項目]					☐品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当事項があれば・・・d ☐品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事検査員が修補指示を行った。 上記該当事項があれば・・・e 該当項目が90%以上・・・a1 該当項目が80%以上90%未満・・・a2 該当項目が70%以上80%未満・・・b1 該当項目が60%以上70%未満・・・b2 該当項目が60%未満・・・c 11① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。 ③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。	
	コンクリート関係							
	☐ 設計図書に定められた施工上の注意事項が守られていることが確認できる。							
	☐ コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質（強度・w/c、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等）が確認できる。							
	☐ コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。							
	☐ 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。							
	☐ 施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。（寒中及び暑中コンクリート等を含む）							
	☐ コンクリートの圧縮強度を管理して、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っていることが確認できる。							
	☐ コンクリートの打設前に、打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。							
	☐ 鉄筋（PC鋼材含む）の品質が、証明書類で確認できる。							
	☐ 鉄筋の引張強度及び曲げ強度の試験値が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。							
	☐ コンクリート打設までにさび、泥、油等の有害物が鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。							
	☐ 鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。							
	☐ 圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っていることが確認できる。							
	☐ スペーサーを適切に配置し、鉄筋の被りを確保している。							
	☐ コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。							
	☐ プレビーム桁のプレフレクション管理が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。							
	☐ 使用する装置及び機器のキャリブレーションを事前に実施していることが確認できる。							
	☐ PC鋼材の緊張及びグラウト注入管理値が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。							
	☐ プレストレッシング時のコンクリート圧縮強度が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。							
☐ 有害なクラックが無い。（進行性のクラックで無く、発生したクラックに対しては有識者の意見に基づく適切な処置を行っている。）								
☐ その他理由：								

÷

=

%

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e	
3. 出来形及び出来ばえ	港湾築造工事	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない			
Ⅱ. 品質	共通	〔評価対象項目〕					☐品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当事項があれば・・・d	☐品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事検査員が修補指示を行った。 上記該当事項があれば・・・e	
		[評価対象項目]							
		1	☐	濁り防止等環境保全に十分注意して施工していることが確認できる。					
		2	☐	既設構造物に影響のないよう十分検討して施工されていることが確認できる。					
		3	☐	航行船舶に影響のないよう十分検討して施工されていることが確認できる。					
		4	☐	材料等の品質に異常値が想定される場合、品質確認に必要な試験等が行われていることが確認できる。					
		5	☐	気象・海象を十分調査して施工されていることが確認できる。					
		6	☐	設計図書に定められた施工上の注意事項が守られていることが確認できる。					
		7	☐	作業船が十分管理下におかれ、統率されていることが確認できる。					
		8	☒	その他理由：					
	9	☐	土砂処分における運搬途中で漏出がないように施工していることが確認できる。						
	10	☐	設計図書に定められた施工上の注意事項が守られていることが確認できる。						
	11	☐	潮位及び潮流、波浪等の状況を十分把握して施工されている。						
	12	☐	土質改良を適切に行っていることが記録で確認できる。						
	13	☐	土捨場土量に制約がある場合、適切な土量で、許容範囲に精度良く平坦に仕上がっている。						
	14	☐	土捨場に制約がなく、深堀しても周辺構造物に影響がない場合、今後の埋没も考慮し、深く平坦に仕上がっている。						
	15	☐	土質に対して、適正な船舶、機械を使用し、周辺環境への影響を最小限に抑えている。（大型船による施工で、作業日数短縮等も含む）						
	16	☐	浚渫・床堀時に濁り防止に十分注意して、漏出がないように施工していることが確認できる。						
	17	☐	浚渫工又は床堀工において、作業現場の土質条件、海象条件、周辺海域の利用状況等を考慮して、効率的作業が可能な作業船を選定していることが確認できる。						
	18	☐	土砂運搬において、施工の効率、周辺海域の利用状況を考慮して、土砂の運搬経路を決定していることが確認できる。						
19	☐	床堀工において、底面、法面の施工で出来形の許容範囲を超えた場合、置換材と同等以上の材料で埋め戻しを行っていることが確認できる。							
20	☐	置換材の規格・品質が試験成績表等（現物照合を含む）で確認できる。							
次項へ続く									

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	港湾築造工事	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
II. 品質	地盤改良関係	〔評価対象項目〕						
		21	☐	砲弾等の爆発物が発見された場合、関係機関への報告が速やかになされていることが確認できる。				
22		☒	その他理由：					
23		☐	改良材料の管理記録が整理され、品質管理を適切に行っていることが記録で確認でき、設計図書の仕様を満足している。					
24		☐	浮泥を巻き込まないよう置換材を投入していることが確認できる。					
25		☐	サンドドレーン・砕石ドレーン、サンドコンパクションバイル及びロッドコンパクションが連続した一様な形状・品質に施工されていることが打込記録等により確認できる。					
26		☐	ペーパードレーンが計画深度まで破損なく正常に形成されていることが打込記録等により確認できるとともに、打設を完了したペーパードレーンの頭部が保護され、排水効果が維持されていることが確認できる。					
27		☐	深層混合処理の打込記録等から、設計図書に定められている事項が確認できる。					
28		☐	前記以外の改良工法について、記録から設計図書に定められている事項が確認できる。					
29		☐	盛上り土の状況確認及び管理を適切に行っていることが記録で確認できる。					
マット、捨石及び均し関係	30	☐	捨石、被覆石等の石材は、扁平細長でなく、風化凍壊の恐れのないものが使用されていることが確認できる。					
	31	☐	施工面から浮泥等の品質の害となるものを除去してから施工されていることが確認できる。					
	32	☐	マットの施工が平滑に仕上げられていることが記録により確認できる。					
	33	☐	捨石、被覆及び根固め石の施工が平滑に仕上げられていることが記録により確認できる。					
	34	☒	その他理由：					
	35	☐	捨石、被覆石など材料の規格・品質が試験成績表等（現物照合を含む）で確認できる。					
	36	☐	マットが破損なく所定の幅で重ね合わせられていることが写真記録等により確認できる。					
	37	☐	捨石、被覆及び根固め石がゆるみのないよう堅固に施工され、記録により確認できる。					
	38	☐	裏込めが既設構造物及び防砂目地板の破損がなく施工され、記録により確認できる。					
	39	☒	その他理由：					
本体：杭及び矢板、控工関係	40	☐	鋼材の規格・数量がミルシート等（現物照合を含む）で確認できる。					
	次項へ続く							

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	港湾築造工事	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
II. 品質	本体：ケーソン据付、ブロック据付関係	〔評価対象項目〕						
		41	☐	鋼材の保管にあたり、変形及び塗覆装面に損傷を与えないよう、適切に処置されていることが確認できる。				
		42	☐	杭及び矢板に損傷及び修補痕がなく施工されていることが確認できる。				
		43	☐	杭及び矢板の打止めの施工管理方法等が整備され、かつ記録が確認できる。				
		44	☐	腹起し材を全長にわたり規定の水平高さに取り付け、ボルトで十分締め付け矢板壁に密着させていることが確認できる。				
		45	☐	タイロッドは隅角部等特別な場合を除き矢板法線に対して直角に設置されていることが確認できる。				
		46	☐	溶接及び切断の品質管理に関して設計図書の仕様を満足している。				
		47	☒	その他理由：				
		48	☐	ケーソン仮置に先立ち仮置場を調査し、仮置作業が所定の位置に異常なく行われていることが確認できる。				
		49	☐	ケーソン据付に先立ち、気象・海象等を十分調査し、据付作業が所定の精度で行われていることが確認できる。				
		50	☐	ケーソン据付等及び中詰においてケーソン及び既設構造物等の破損がなく施工されていることが確認できる。				
		51	☐	コンクリートブロック据付に先立ち、気象・海象等を十分調査し、据付作業が所定の精度で行われていることが確認できる。				
		52	☐	ブロック据付等においてブロック及び既設構造物等の破損がなく施工されていることが確認できる。				
		53	☐	ケーソンえい航に先立ち、気象・海象等を十分調査し、適切な時期を選定されていることが確認できる。				
		54	☐	ケーソンえい航に先立ち、上蓋、安全ネット又は吊り足場等を設置し、墜落防止の措置を講じていることが確認できる。				
		55	☐	ケーソン注水時の隔壁の水頭差が1m以内になるように管理されていることが確認できる。				
		56	☐	ケーソン仮置き、据付の時期について、設計図書を満足するよう実施されていることが確認できる。				
		57	☐	中詰において海上漏出がないように施工されていることが確認できる。				
58	☒	その他理由：						
59	☐	コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質（強度・w/c、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等）が確認できる。						
60	☐	コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。						
次項へ続く								

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ		優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
II. 品質		〔評価対象項目〕 61 ☐ 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。 62 ☐ 施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。（寒中及び暑中コンクリート等を含む） 63 ☐ コンクリートの圧縮強度を管理して、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っていることが確認できる。 64 ☐ コンクリートの打設前に、打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。 65 ☐ 鉄筋（P C鋼材含む）の品質が、証明書類で確認できる。 66 ☐ 鉄筋の引張強度及び曲げ強度の試験値が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 67 ☐ コンクリート打設までにさび、泥、油等の有害物が鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。 68 ☐ 鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 69 ☐ 圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っていることが確認できる。 70 ☐ スペーサーを適切に配置し、鉄筋の被りを確保している。 71 ☐ コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 72 ☐ プレビューム桁のプレフレクション管理が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 73 ☐ 使用する装置及び機器のキャリブレーションを事前に実施していることが確認できる。 74 ☐ P C鋼材の緊張及びグラウト注入管理値が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 75 ☐ プレストレッシング時のコンクリート圧縮強度が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 76 ☐ 有害なクラックが無い。（進行性のクラックで無く、発生したクラックに対しては有識者の意見に基づく適切な処置を行っている。） 77 ☐ その他理由：						

該当項目が90%以上・・・・・・・・・・a1

該当項目が80%以上90%未満・・・・・・・・a2

該当項目が70%以上80%未満・・・・・・・・b1

該当項目が60%以上70%未満・・・・・・・・b2

該当項目が60%未満・・・・・・・・・・c

÷

=

%

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。

② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。

③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e	
3. 出来形及び出来ばえ	海岸工事	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない			
Ⅱ. 品質	共通	〔評価対象項目〕					☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当事項があれば・・・d	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事検査員が修補指示を行った。 上記該当事項があれば・・・e	
		1	☐	コンクリートの圧縮強度を管理し、必要な強度に達した後型枠及び支保工の取り外しを行っていることが確認できる。					
		2	☐	運搬、打設、締め固めが、気象条件に適しており、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。					
		3	☐	圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が当該現場の供試体であることが確認できる。					
		4	☐	コンクリートブロックの転置及び仮置にあたって、強度確認を行っている。					
		5	☐	転倒や崩壊等が無いようコンクリートブロックの仮置を行っていることが確認できる。					
		6	☐	捨石基礎の均し面を平坦に仕上げていることが確認できる。					
		7	☐	工事期間中、1日1回は潮位観測を実施して記録していることが確認できる。					
		8	☐	台風などの異常気象に備えて施工前に避難場所の確保及び退避設備の対策を講じていることが確認できる。					
		9	☒	その他理由：					
		該当項目が90%以上・・・a1 該当項目が80%以上90%未満・・・a2 該当項目が70%以上80%未満・・・b1 該当項目が60%以上70%未満・・・b2 該当項目が60%未満・・・c					① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。 ③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。 ÷ = ％		

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✓マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	防舷材工	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
Ⅱ. 品質		〔評価対象項目〕 1 ☐ 防舷材の保管が適切に行われている。 2 ☐ ゴムの試験が適切に行われ、記録が整備されている。 3 ☐ ボルトの締め付けトルクが確認されている。 4 ☐ 埋戻栓の掘削長が管理されている。 5 ☐ ボルトの取り付け位置を管理している。 6 ☐ 防舷材の高さを適切に管理している。 7 ☒ その他理由：						

該当項目が90%以上・・・・・・・・a1

該当項目が80%以上90%未満・・・・a2

該当項目が70%以上80%未満・・・・b1

該当項目が60%以上70%未満・・・・b2

該当項目が60%未満・・・・・・・・c

÷=%

☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で指示を行い改善された。

上記該当事項があれば・・・d

☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事検査員が修補指示を行った。

上記該当事項があれば・・・e

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。

② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。

③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	浮棧橋改良(ウレタン注入)工事	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
Ⅱ. 品質		〔評価対象項目〕 1 ☐ 使用材料の品質規格証明書が整備され、設計仕様の規定する規格、品質を満足している。 2 ☐ 設計仕様に基づく発泡ウレタンの配合試験または試験練りが行われており、適切な材料規格(強度・密度等)が確認できる。 3 ☐ 性能試験をするもので公的機関の証明書が整備されている。 4 ☐ 発泡ウレタンの供試体が当該現場のものであることが確認できる。 5 ☐ 発泡ウレタンの充填が充分で空隙が生じていない。 6 ☐ 発泡ウレタンの施工時に供試体を採取し、強度・密度等が確認できる。 7 ☐ 使用材料の空缶管理で、充缶及び空缶であることが確実に写真等で確認でき、出荷証明書が整理されている。 8 ☐ 設計仕様で定められた制限内の気温・湿度の条件で作業を行っていることが確認できる。 9 ☐ 浮棧橋内部の不純物の除去が確実に実施されている。 10 ☐ 流入量は流量計を使用し、規定分の注入剤を注入したことが確認できる。 11 ☐ 注入状況を証明する記録用紙には、監督員の検印されたもので整理されている。 12 ☐ 現地状況を勘案し、施工方法等についての提案を行うなど積極的に取り組んでいることが確認できる。 13 ☒ その他理由：						

該当項目が90%以上・・・a1

該当項目が80%以上90%未満・・・a2

該当項目が70%以上80%未満・・・b1

該当項目が60%以上70%未満・・・b2

該当項目が60%未満・・・c

÷

=

%

品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で指示を行い改善された。

上記該当事項があれば・・・d

品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事検査員が修補指示を行った。

上記該当事項があれば・・・e

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。

② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。

③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	電気設備工事	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
Ⅱ. 品質	共通	[評価対象項目]					☐品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当事項があれば・・・d	☐品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事検査員が修補指示を行った。 上記該当事項があれば・・・e
		1	☐	製作着手前に、品質や性能の確保に係る技術検討を実施していることが確認できる。				
		2	☐	材料・部品の品質照合の結果が品質保証書等（現物照合を含む）で確認でき、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。				
		3	☐	機器の品質、機能及び性能が設計図書を満足して、成績書にまとめられていることが確認できる。				
		4	☐	操作スイッチや表示灯が承諾図書のとおり配置され、操作性に優れていることが確認できる。				
		5	☐	ケーブル及び配管の接続などの作業が、施工計画書に記載された手順に沿って行われ、不具合が無いことが確認できる。				
		6	☐	設備の機能及び性能が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。				
		7	☐	操作制御関係の機能及び性能が、設計図書の仕様を満足しているとともに、必要な安全装置及び保護装置の作動が確認できる。				
		8	☐	設備の総合性能が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。				
		9	☐	現場条件によって機器（製品）の機能及び性能が確認できない場合において、工場試験などで確認していることが確認できる。				
		10	☐	設備全体についての取扱説明書を工夫し作成（修繕（改造・更新含む）の場合は、修正又は更新）していることが確認できる。				
		11	☐	完成図書で定期的な点検や交換を要する部品及び箇所を明示していることが確認できる。				
		12	☐	設備の構造において、点検や消耗品の取替え作業が容易にできるよう工夫していることが確認できる。				
13	☒	その他理由：						
該当項目が90%以上・・・a1 該当項目が80%以上90%未満・・・a2 該当項目が70%以上80%未満・・・b1 該当項目が60%以上70%未満・・・b2 該当項目が60%未満・・・c						÷ = %	① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。 ③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。	

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕該当する項目の□に✓マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	通信設備工事・受変電設備工事	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
Ⅱ. 品質	共通	〔評価対象項目〕					☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当事項があれば・・・d	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事検査員が修補指示を行った。 上記該当事項があれば・・・e
		1	☐	設計図書に定められている品質管理を実施していることが確認できる。				
		2	☐	材料及び構成部品の品質及び形状について、設計図書等と適合が確認できる証明書等を整備していることが確認できる。				
		3	☐	材料の品質照合の結果が、品質保証書等（現物照合を含む）で確認でき、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。				
		4	☐	設備、機器の品質、機能及び性能が、成績等で確認でき、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。				
		5	☐	ケーブル及び配管の接続などの作業が、施工計画書に記載された手順に沿って行われ、不具合が無いことが確認できる。				
		6	☐	設備全体としての運転性能が所定の能力を満足していることが確認できる。				
		7	☐	完成図書において、設備の機能並びに性能及び操作方法が容易に判別できる資料を整備していることが確認できる。				
		8	☐	完成図書において、単体品の製造年月日及び製造者が判別できる資料を整備していることが確認できる。				
		9	☐	設備全体及び各機器において、設計図書に規定した品質及び性能を工場試験記録により確認できる。				
		10	☐	設備全体についての取扱説明書を工夫していることが確認できる。				
		11	☐	完成図書で定期的な点検や交換を要する部品及び箇所を明示していることが確認できる。				
		12	☐	設備の構造において、点検や消耗品の取替え作業が容易にできるよう工夫していることが確認できる。				
13	☒	その他理由：						
該当項目が90%以上・・・a1 該当項目が80%以上90%未満・・・a2 該当項目が70%以上80%未満・・・b1 該当項目が60%以上70%未満・・・b2 該当項目が60%未満・・・c						÷ = %	① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。 ③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。	

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	機械設備工事	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
Ⅱ. 品質	共通	〔評価対象項目〕					品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当事項があれば・・d 該当事項が90%以上・・・・・a1 該当事項が80%以上90%未満・・・・a2 該当事項が70%以上80%未満・・・・b1 該当事項が60%以上70%未満・・・・b2 該当事項が60%未満・・・・・c ① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率(%) 計算の値で評価する。 ③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。	品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事検査員が修補指示を行った。 上記該当事項があれば・・e
		1	☐	材料、部品の品質照合の書類（現物照合）を整理し品質の確認ができる。				
		2	☐	設備の機能及び性能が、承諾図書のとおり確保され、品質の確認ができる。				
		3	☐	設計図書の仕様を踏まえた詳細設計を行い、承諾図書として提出していることが確認できる。				
		4	☐	機器の機能及び性能に係る成績書が整理され、品質の確認ができる。				
		5	☐	溶接管理基準の品質管理項目について、品質管理書類を整理し品質の確認ができる。				
		6	☐	塗装管理基準の品質管理項目について、品質管理書類を整理し品質の確認ができる。				
		7	☐	操作制御設備について、操作スイッチや表示灯が承諾図書のとおり配置され、操作性にすぐれていることが確認できる。				
		8	☐	操作制御設備の安全装置及び保護装置の機能・性能確認試験について、試験書類を整理し品質の確認ができる。				
		9	☐	小配管、電気配線、配管が承諾図書のとおり敷設していることが確認できる。				
		10	☐	設備の取扱説明書を工夫していることが確認できる。				
		11	☐	完成図書（取扱説明書）に部品等の点検及び交換方法について、まとめていることが確認できる。				
		12	☐	機器の配置が点検しやすいよう工夫していることが確認できる。				
		13	☐	設備の構造や機器の配置が、交換頻度の高い部品等の交換作業を容易にできるよう工夫していることが確認できる。				
		14	☐	二次コンクリートの配合試験及び試験練りを実施し、試験成績表にまとめていることが確認できる。				
		15	☐	バルブ類の平時の状態を示すラベルなどが見やすい状態で表示していることが確認できる。				
		16	☐	計器類に運転時の適用範囲を見やすく表示していることが確認できる。				
		17	☐	回転部や高温部等の危険箇所に表示又は防護をしていることが確認できる。				
		18	☐	構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。				
		19	☐	現地状況を勘案し、施工方法等についての提案を行うなど積極的に取り組んでいることが確認できる。				
20	☒	その他理由：						
÷ = %								

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕該当する項目の□に✔マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	治山(かご工)工事	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
II. 品質		〔評価対象項目〕 1 ☐ 設計図書・仕様で定めている材料の品質が、証明書類で確認出来る。 2 ☐ 掘削面に崩壊・過堀がなく、施工基面が平滑に仕上げていることが確認できる。 3 ☐ かご枠の吊込み・据付・連結を確実にに行っていることが確認できる。 4 ☐ かご枠のかみ合わせ及び設置が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 5 ☐ 吸い出し防止材が所定の幅で重ね合わせ、設計図書の仕様を満足して設置していることが確認できる。 6 ☐ かご枠内詰石を、空隙が生じないよう十分に施工していることが確認できる。 7 ☐ 地山法面との取り合せを適切に行っていることが確認できる。 8 ☐ かご枠周辺の盛土・埋戻しの施工にあたり、締固め(まき出し・転圧)が適正に行われている。 9 ☐ 施工付近上下流部溪床との取合せを適切に行っていることが確認できる。 10 ☐ 伐開除根作業が設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。 11 ☐ 仮設道路が設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。 12 ☒ その他理由：						

該当項目が90%以上・・・a1

該当項目が80%以上90%未満・・・a2

該当項目が70%以上80%未満・・・b1

該当項目が60%以上70%未満・・・b2

該当項目が60%未満・・・c

÷=%

☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で指示を行い改善された。

上記該当事項があれば・・・d

☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事検査員が修補指示を行った。

上記該当事項があれば・・・e

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。

② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。

③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✓マークを記入し、所見を枠内に記入する。

(工事検査員)

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	植栽工事	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
Ⅱ. 品質	共通	〔評価対象項目〕 1 ☐ 活着が促されるよう管理していることが確認できる。 2 ☐ 樹木などに損傷、はちくずれ等が無いよう保護養生を行っていることが確認できる。 3 ☐ 樹木等の生育に害のある害虫等がないことが確認できる。 4 ☐ 施工完了後、余剰枝の剪定、整形その他必要な手入れを行っていることが確認できる。 5 ☐ 肥料が直接樹木の根に触れないよう均一に施肥していることが確認できる。 6 ☐ 植生する樹木に応じて、余裕のある植穴を掘り植穴底部を耕していることが確認できる。 7 ☐ 添木をぐらつきがないよう設置していることが確認できる。 8 ☐ 樹名板を視認しやすい場所に据付けていることが確認できる。 9 ☐ その他理由： 該当項目が90%以上・・・a1 該当項目が80%以上90%未満・・・a2 該当項目が70%以上80%未満・・・b1 該当項目が60%以上70%未満・・・b2 該当項目が60%未満・・・c ÷ = %					☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当事項があれば・・・d	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事検査員が修補指示を行った。 上記該当事項があれば・・・e
							① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。 ③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。	

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕該当する項目の□に✓マークを記入し、所見を枠内に記入する。

（工事検査員）

考査項目	細別	a1	a2	b1	b2	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	防護柵（網）工事	優れている	b1より優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない		
II. 品質	共通	〔評価対象項目〕 1☐ 防護柵設置要綱、視線誘導標設置基準、道路標識ハンドブック等の規定を満足していることが確認できる。 2☐ 防護柵等の床堀りの仕上がり面において、地山の乱れや不陸が生じないように施工していることが確認できる。 3☐ 防護柵等の基礎工の施工にあたって、無筋及び鉄筋コンクリートの規定を満足していることが確認できる。 4☐ 防護柵等の支柱の施工にあたって、既設舗装面へ影響が無いよう施工していることが確認できる。 5☐ 基礎設置箇所について地盤の地耐力を把握して、施工していることが確認できる。 6☐ 防護柵の支柱の根入長が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 7☐ ガードケーブルを支柱に取付ける場合、設計図書に定められた所定の張力を与えているのが確認できる。 8☐ ガードケーブルの端末支柱を土中に設置する場合、打設したコンクリートが設計図書に定められた強度以上であることが確認できる。 9☐ ペイント式（常温式）区画線に使用するシンナーの使用量が、10%以下であることが確認できる。 10☐ 区画線の厚さが見本等で設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 11☐ 区画線施工後の昼間及び夜間の視認性が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 12☐ 区画線の施工にあたって設置路面の水分、泥、砂じん及びほこりを取り除いて行っていることが確認できる。 13☐ 区画線を消去の場合、表示材（塗料）のみの除去となっており、路面への影響が最小限となっていることが確認できる。 14☐ ブライマーの施工にあたって、路面に均等に塗布していることが確認できる。 15☐ 区画線の材料が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 16☒ その他理由： 該当項目が90%以上・・・a1 該当項目が80%以上90%未満・・・a2 該当項目が70%以上80%未満・・・b1 該当項目が60%以上70%未満・・・b2 該当項目が60%未満・・・c ÷ = %					☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当事項があれば・・・d	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事検査員が修補指示を行った。 上記該当事項があれば・・・e

① 当該「評価対象項目」のうち、評価対象外の項目は削除する。

② 削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として、比率（％）計算の値で評価する。

③ なお、削除後の評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、a～dに○をつける。

(工事検査員)

考査項目	細 別	工 種	a	b	c	d
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及び 出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ 	舗装工事	※該当項目が5項目以上・・・・・・・・a 該当項目が4項目・・・・・・・・b 該当項目が3項目・・・・・・・・c 該当項目が2項目以下・・・・・・・・d			
			1 ☐ 舗装の平坦性が良い。			
			2 ☐ 構造物の通りが良い。			
			3 ☐ 端部処理が良い。			
			4 ☐ 構造物へのすりつけ等が良い。			
			5 ☐ 雨水処理が良い。			
			6 ☐ 全体的な美観が良い。			

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の□に✔マークを記入し、a～dに○をつける。(工事検査員)

考査項目	細 別	工 種	a	b	c	d
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ 	道路改良工事	1 ☐ 構造物の通りが良い。 2 ☐ 構造物の表面状態が良い。 3 ☐ 材料のかみ合わせがよく、クラックが無い。 4 ☐ 天端及び端部の仕上げが良い。 5 ☐ 既設構造物との取り合いが良い。 6 ☐ 全体的な美観が良い。 ※該当項目が5項目以上・・・a 該当項目が4項目・・・b 該当項目が3項目・・・c 該当項目が2項目以下・・・d			

工事名： 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✓マークを記入し、a～dに○をつける。

(工事検査員)

考査項目	細 別	工 種	a	b	c	d
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及び出来ばえ	III. 出来ばえ 	下水道工事	1 ☐ 通りが良い。 2 ☐ 漏水がない。 3 ☐ クラックがない。 4 ☐ マンホール天端と路面とのすりつけが良い。 5 ☐ 残土等は適切に処理されている。	※該当項目が4項目以上・・・・・・a 該当項目が3項目・・・・・・b 該当項目が2項目・・・・・・c 該当項目が1項目以下・・・・・・d		

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の□に☑マークを記入し、a～dに○をつける。

(工事検査員)

考査項目	細 別	工 種	a	b	c	d	
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ 	コンクリート構造物工事	1 ☐ コンクリート構造物の肌が良い。 2 ☐ コンクリート構造物の通りが良い。 3 ☐ 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 4 ☐ クラックがない。 5 ☐ 漏水がない。 6 ☐ 全体的な美観が良い。				※該当項目が5項目以上・・・a 該当項目が4項目・・・b 該当項目が3項目・・・c 該当項目が2項目以下・・・d

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に☑マークを記入し、a～dに○をつける。

(工事検査員)

考査項目	細 別	工 種	a	b	c	d	
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ 	護岸・根固・水制工事	1 ☐ 通りが良い。 2 ☐ 材料のかみ合わせがよく、クラックが無い。 3 ☐ 天端及び端部の仕上げが良い。 4 ☐ 既設構造物とのすりつけが良い。 5 ☐ 全体的な美観が良い。				※該当項目が4項目以上・・・a 該当項目が3項目・・・b 該当項目が2項目・・・c 該当項目が1項目以下・・・d

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✓マークを記入し、a～dに○をつける。

(工事検査員)

考査項目	細 別	工 種	a	b	c	d		
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている		
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ 	二次製品水路工事	1 ☐ 構造物の通りが良い。 2 ☐ 材料の連結、かみ合わせが良い。 3 ☐ 土工の仕上がりが良い。 4 ☐ 構造物との取合せ等が良い。 5 ☐ 全体的な美観が良い。				※該当項目が4項目以上・・・a 該当項目が3項目・・・b 該当項目が2項目・・・c 該当項目が1項目以下・・・d	

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、a～dに○をつける。

(工事検査員)

考査項目	細 別	工 種	a	b	c	d
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ 	橋梁修繕（ひび割れ補修・断面修復工等）	※該当項目が 4 項目以上・・・・・・a 該当項目が 3 項目・・・・・・b 該当項目が 2 項目・・・・・・c 該当項目が 1 項目以下・・・・・・d 1 ☐ 構造物の表面及び端部の仕上げが良い。 2 ☐ きめ細やかな施工がなされている。 3 ☐ 既設構造物とのすりつけが良い。 4 ☐ 施工管理記録等から不可視部分の出来映えの良さが伺える。 5 ☐ 全体的な美観が良い。			

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の審査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に☑マークを記入し、a～dに○をつける。

(工事検査員)

審査項目	細 別	工 種	a	b	c	d	
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ 	塗装工事	1 ☐ 塗装の均一性が良い。 2 ☐ 細部まできめ細かな施工がされている。 3 ☐ 補修箇所が無い。 4 ☐ ケレンの施工状況が良好である。 5 ☐ 全体的な美観が良い。				※該当項目が4項目以上・・・・・・・・a 該当項目が3項目・・・・・・・・b 該当項目が2項目・・・・・・・・c 該当項目が1項目以下・・・・・・・・d

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、a～dに○をつける。

(工事検査員)

考査項目	細 別	工 種	a	b	c	d
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ	ブロック製作工事（ケーソン陸上製作工事を含む）	※該当項目が4項目以上・・・・・・・・a 該当項目が3項目・・・・・・・・b 該当項目が2項目・・・・・・・・c 該当項目が1項目以下・・・・・・・・d			
			1 ☐ コンクリート構造物の表面状態が良い。			
			2 ☐ コンクリート構造物の通りが良い。			
			3 ☐ 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。			
			4 ☐ クラックがない。			
			5 ☐ 全体的な美観が良い。			

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、a～dに○をつける。

(工事検査員)

考査項目	細 別	工 種	a	b	c	d
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ	港湾築造工事	1 ☐ 構造物の通りが良い。			
			2 ☐ 施工管理記録などから不可視部分の出来映えの良さが伺える。			
			3 ☐ 構造物等の表面及び端部の仕上げが良い。			
			4 ☐ 構造物等のきめ細やかな施工がなされている。			
			5 ☐ 全体的な美観が良い。			

※該当項目が4項目以上・・・・・・a
該当項目が3項目・・・・・・b
該当項目が2項目・・・・・・c
該当項目が1項目以下・・・・・・d

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、a～dに○をつける。

(工事検査員)

考査項目	細 別	工 種	a	b	c	d					
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている					
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ 	海岸工事	1 ☐ コンクリート構造物の肌が良い。	※該当項目が 5 項目以上 a 該当項目が 4 項目 b 該当項目が 3 項目 c 該当項目が 2 項目以下 d			2 ☐ コンクリート構造物の通りが良い。	3 ☐ 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。	4 ☐ クラックがない。	5 ☐ 漏水がない。	6 ☐ 全体的な美観が良い。

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の□に✔マークを記入し，a～dに○をつける。

(工事検査員)

考査項目	細 別	工 種	a	b	c	d
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ □	防舷材工	1 ☐ きめ細やかな施工がなされている。 2 ☐ 既設構造物に破損がなく施工されている。 3 ☐ 部材表面に傷がない。 4 ☐ 全体的な美観が良い。 5 ☒ その他理由 ※該当項目が 4 項目以上・・・a 該当項目が 3 項目・・・b 該当項目が 2 項目・・・c 該当項目が 1 項目以下・・・d			

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、a～dに○をつける。

(工事検査員)

考査項目	細 別	工 種	a	b	c	d
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ		1 ☐ きめ細かな施工がなされている。 2 ☐ 浮棧橋本体に問題がなく仕上がり良い。 3 ☐ 竣工図書（施工管理記録、写真等）から不可視部分の出来ばえの良さが伺える。 4 ☐ 浮棧橋本体及び作業ヤードの片づけ・清掃が十分になされている。 5 ☐ 全体的な美観が良い。 ※該当項目が4項目以上・・・・・・・・a 該当項目が3項目・・・・・・・・b 該当項目が2項目・・・・・・・・c 該当項目が1項目以下・・・・・・・・d			

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✓マークを記入し、a～dに○をつける。

(工事検査員)

考査項目	細 別	工 種	a	b	c	d
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ 	電気設備工事	1 ☐ きめ細やかな施工がなされている。 2 ☐ 公共物として、安全性の確保、環境及び維持管理等への配慮がなされている。 3 ☐ 動作状態において、電氣的及び機械的な異常が無く、総合的な機能及び運用性が良い。 4 ☐ ケーブル等の接続方法及び収納状況が適切である。 5 ☐ 操作、保守点検等の容易さを確保するための配慮がなされている。 6 ☐ 全体的な美観が良い。			

※該当項目が5項目以上・・・a
該当項目が4項目・・・b
該当項目が3項目・・・c
該当項目が2項目以下・・・d

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、a～dに○をつける。

(工事検査員)

考査項目	細 別	工 種	a	b	c	d
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ	通信設備工事・受変電設備工事	※該当項目が5項目以上・・・・・・・・a 該当項目が4項目・・・・・・・・b 該当項目が3項目・・・・・・・・c 該当項目が2項目以下・・・・・・・・d			
			1 ☐ 主設備、関連設備等にきめ細かな施工がされている。			
			2 ☐ 公共物として、安全性の確保、環境及び維持管理等への配慮がなされている。			
			3 ☐ 動作状態において、電氣的及び機械的な異常が無く、総合的な機能や運用性が良い。			
			4 ☐ 当該設備及び関連設備が全体的に協調及び統制され、総合的な性能向上への配慮がなされている。			
			5 ☐ 操作、保守点検等の容易さを確保するための配慮がなされている。			
			6 ☐ 全体的な美観が良い。			

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

〔記入方法〕 該当する項目の□に✔マークを記入し、a～dに○をつける。

(工事検査員)

考査項目	細 別	工 種	a	b	c	d	
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている	
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ 	機械設備工事	1 ☐ 主設備、関連設備及び操作制御設備が全体的に統制されており、運転操作性が良い。 2 ☐ きめ細かな施工がなされている。 3 ☐ 土木構造物、既設設備等とのすりつけが良い。 4 ☐ 溶接、塗装、組立等にあたって、細部に渡る配慮がなされている。 5 ☐ 全体的な美観が良い。				※該当項目が 4 項目以上・・・a 該当項目が 3 項目・・・b 該当項目が 2 項目・・・c 該当項目が 1 項目以下・・・d

工事名 : ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の□に✔マークを記入し、a～dに○をつける。(工事検査員)

考査項目	細 別	工 種	a	b	c	d
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ 	治山(かご工)工事	1 ☐ 構造物の通りが良い。			
			2 ☐ 継目部に隙間・ズレがなく、かみ合わせが良い。			
			3 ☐ 天端及び端部の仕上がりが良い。			
			4 ☐ 地山との取り合いが良い。			
			5 ☐ 土工の仕上がりが良い。			
			6 ☐ 全体的な美観が良い。			

※該当項目が5項目以上・・・a
該当項目が4項目・・・b
該当項目が3項目・・・c
該当項目が2項目以下・・・d

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目の□に✓マークを記入し，a～dに○をつける。

(工事検査員)

考査項目	細 別	工 種	a	b	c	d
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3．出来形及び出来ばえ	Ⅲ．出来ばえ 	植栽工事	1 ☐ 樹木の活着状況が良い。 2 ☐ 支柱の取り付けがきめ細かく施工されている。 3 ☐ 支柱の取り付けが堅固である。 4 ☐ 全体的な美観が良い。 ※該当項目が3項目以上・・・a 該当項目が2項目・・・b 該当項目が1項目・・・c 該当項目無し・・・d			

工事名： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○工事

工事成績評定の考査項目別運用表

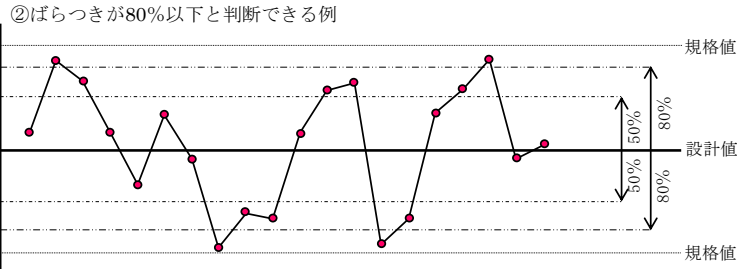
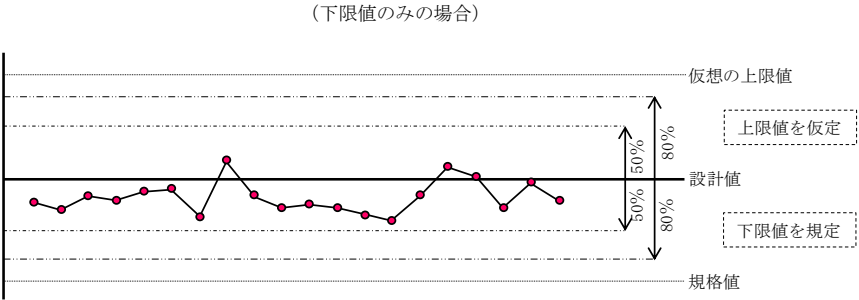
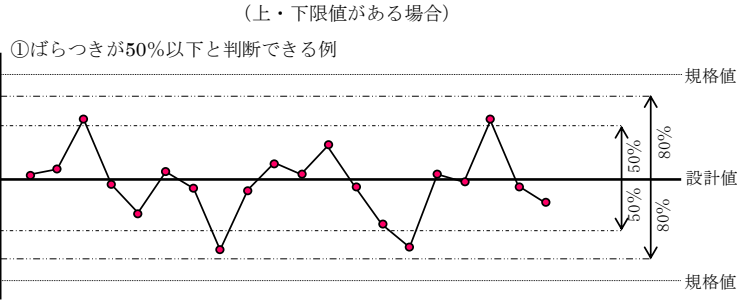
[記入方法] 該当する項目の□に✔マークを記入し、a～dに○をつける。 (工事検査員)

考査項目	細 別	工 種	a	b	c	d
			優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ 	防護柵（網）工事	※該当項目が5項目以上・・・・・・・・a 該当項目が4項目・・・・・・・・b 該当項目が3項目・・・・・・・・c 該当項目が2項目以下・・・・・・・・d			
			1 ☐ 通りが良い。			
			2 ☐ 端部処理が良い。			
			3 ☐ 部材表面に傷及び錆が無い。			
			4 ☐ 既設構造物等とのすりつけが良い。			
			5 ☐ きめ細やかに施工されている。			
			6 ☐ 全体的な美観が良い。			

別図

出来形及び品質のばらつきの考え方

[管理図の場合]



[度数表またはヒストグラムの場合]

